

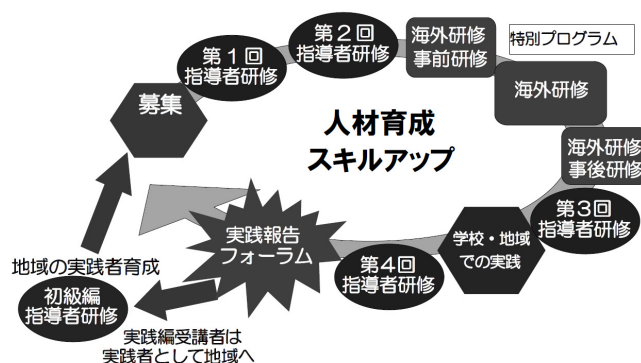
# 1. 教師海外研修の概要

## ● 目的とねらい

### (1) 事業の目的・海外研修の目的

開発教育に熱心に取り組んでいる小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等の教師（以下「教師」という。）を対象に、指導者研修等の国内研修および JICA が支援している国への海外研修を有機的に組み合わせた上で実施し、各国の置かれている現状と日本との関係（国際協力を含む）への理解を深め、その成果を、次代を担う生徒の教育に役立ててもらふこと、また、研修参加後、JICA 国内機関と協力し、教育現場で開発教育を推進する中核となるような人材を育成することを本事業の目的としている。

この事業の目的を踏まえた海外研修の目的を次のとおり設定している。



海外研修のテーマを「持続可能な開発」とし、教師の皆さんが、ガーナ・ラオスの暮らしや社会、JICA の協力活動等の体感を通じて、人類の多様性、心の同一性、問題点、課題を解決するために必要なことなどを調べ考え、その経験を共通の教材にし、日本の児童・生徒への開発教育・国際理解教育に活かしてもらうことを目的とする。

#### ガーナ・ラオス現地研修の学びの視点

|                           |   |
|---------------------------|---|
| 1. 訪問国に肯定的に出会う            | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 世界の多様性を知り、多様な人やものと出会うこと・交流することの楽しさを伝える。</li> <li>◇ 多角的に肯定的に相手国と出会い、人の顔が見え、つながりを感じられるようになる。</li> </ul>            |
| 2. 日本と訪問国とのつながりや同一性を理解する  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 地球規模で進むグローバル化の恩恵と課題を理解し、日本とガーナ・ラオスとのつながりに気づき、つながりを築く。</li> <li>◇ 国や人の多様性だけではなく、共通するものがあること（同一性）を理解する。</li> </ul> |
| 3. 共に考え・共に越える共通の課題の解決をめざす | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 相手を知ることによって自国（自分）をふりかえり、互いの誇りや課題を確認する。</li> <li>◇ 共に学びあい、知り、考え、気づき、よりよい未来を共に築く入り口を提供する。</li> </ul>               |

## (2) 開発教育指導者研修（実践編）全体のねらい

教師海外研修は、JICA 中部が行う開発教育・国際理解教育支援事業のうち、下記のねらいをもった「開発教育指導者研修（実践編）」（以下「指導者研修」という。）の特別プログラムとして位置づけ、実施するものである。

教師海外研修受講者は、1泊2日全4回の指導者研修・実践報告フォーラムに参加し、ガーナやラオスで得たものを同研修にも還元し、相互に学び合うことをねらいとしている。

### 開発教育指導者研修（実践編）のテーマ、ねらい、プログラム

#### テーマ「持続可能な未来へ…人権・環境・貧困・開発・共生・平和」

- 開発教育・国際理解教育の目的および必要性とE S Dを始めとする他教育との関連性を理解する。
- 行動変容を支え関係性を育む「参加型」と、参加型で学び合う場を提供するファシリテーターの役割を理解し、自ら習熟する。
- 3回までに学んだことを基に、各自の現場で「開発教育／国際理解教育」プログラムを実践し、成果と課題を持ち寄り、改善を加え、よりよい質の教育（B Q O E<sup>※</sup>）につなぐ。
- 1年間におよぶ本研修の成果を、仲間と共に一般の人々に向けて発表することを通して、次なる担い手を増やし、「学びの好循環」を作る。

※B Q O E…Better Quality of Education

#### ◆ 第1回：『 開発教育・国際理解教育のめざすもの 』

- ① 開発教育・国際理解教育の目的、内容、方法を体験的に理解する。
- ② 持続可能な社会を築くために世界の現状を理解し、開発教育・国際理解教育の必要性を共有する。
- ③ 価値観を育て、行動変容を支える参加型についての理解を深める。

#### ◆ 第2回：『 開発教育・国際理解教育にできること 』

- ① 開発教育・国際理解教育が扱う5つの柱について理解する。
- ② 「同一性」「多様性」「わたし・あなた・みんなのつながり」についての学び方を習得する。
- ③ 課題を共に越えるために必要なスキルとスキルビルディングについて学ぶ。

#### ◆ 第3回：『 開発教育・国際理解教育のすすめかた 』

- ① 流れのあるプログラムの作り方について学び、参加型手法を習熟する。
- ② プログラムを作り、ファシリテーターとしてプログラムを実施する。
- ③ ファシリテーターの役割とよりよい参加型の進め方について確認する。

#### ◆ 第4回 & 実践報告フォーラム：『 実践やその成果の共有とフォーラムに向けて 』

- ① 第4回：実践の共有、研修成果のふりかえり、フォーラムの準備を行う。
- ② フォーラム：一年間の研修成果と実践を一般市民に向けて参加型で共有する。

## ● 募集と研修受講者

### (1) 応募資格と参加条件

①～③を募集資格とし、④～⑪をすべて満たす者を参加資格とした。

- ① 応募および研修参加時点で愛知県、岐阜県、三重県、静岡県の国公立、私立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校、特別支援学校の教員または教育委員会の指導主事等であること。
- ② 所属する学校の校長もしくは教頭（教育委員会であれば所属長）の推薦があること。
- ③ 原則、JICA が実施している教師海外研修、ボランティア、専門家、国際協力レポーター（ODA 民間モニター）等 JICA から海外に派遣された経験がないこと。
- ④ 教師海外研修の趣旨・目的を十分理解し、同研修の実施および以後 JICA が実施する開発教育支援事業に協力可能であること。
- ⑤ 授業やクラブ活動で開発教育を実践していること、また今後実践する予定にあること。
- ⑥ 国内で実施される研修・説明会および海外研修の全行程に参加可能であること。
- ⑦ 派遣国の事情（道路状況や衛生環境等）を勘案した上で、全研修行程に参加するに耐える健康状態であること。
- ⑧ 帰国後、所定の期日内に海外研修報告書を提出すること、また本研修の定めた期間内に所属校において授業実践を行い当該授業の実践報告書を提出すること、且つこれら提出物を報告書冊子や JICA ウェブサイトなどで一般公開されることに同意すること。
- ⑨ 本研修の事前および事後連絡における効率化のため、パソコンメールアドレスでの連絡が可能なこと。
- ⑩ 参加者メーリングリストでの情報共有に賛同いただけること。
- ⑪ ガーナ研修の受講者は、出発までに黄熱病ワクチンを接種可能であること。

### (2) 選考

書類審査および面接審査を行い、最終選考の結果、受講者（ガーナ 10 名、ラオス 10 名）を決定した。なお、うちラオス 1 名が現地研修前に自己都合で辞退したため、最終的にラオスの受講者は 9 名となった。

### (3) 研修受講者

◇同行者を除く 19 名（ガーナ 10 名、ラオス 9 名）の属性

|   |  |
|---|--|
| { | 性別：女性 11 名、男性 8 名                      |
|   | 年代：20 代 5 名、30 代 8 名、40 代 5 名、50 代 1 名 |
|   | 地域：愛知 13 名、岐阜 2 名、三重 1 名、静岡 3 名        |
|   | 校種：小学校 9 名、中学校 4 名、高等学校 6 名            |

## ガーナ派遣受講者および同行者

| No. | 名前     | 所属先               | 教科等        | 地域 |
|-----|--------|-------------------|------------|----|
| 1   | 伊藤 実知子 | 豊田市立崇化館中学校        | 英語 1年      | 愛知 |
| 2   | 浦部 紗矢  | 愛知県立刈谷北高等学校       | 国語 2年      | 愛知 |
| 3   | 江間 成昭  | 浜松市立豊岡小学校         | 外国語 5年     | 静岡 |
| 4   | 川口 茉莉  | 名古屋市立菊里高等学校       | 英語 2,3年    | 愛知 |
| 5   | 五藤 聡   | 静岡県立藤枝東高等学校       | 地理歴史 2年    | 静岡 |
| 6   | 小林 一憲  | 私立海星中・高等学校        | 地理歴史 高1,3年 | 三重 |
| 7   | 佐古 亜希子 | 蟹江町立新蟹江小学校        | 全教科 6年     | 愛知 |
| 8   | 鈴木 吾宙  | 一宮市立奥小学校          | 全教科 6年     | 愛知 |
| 9   | 服部 郁子  | 安城市立里町小学校         | 全教科 6年     | 愛知 |
| 10  | 割石 裕美子 | 岐阜市立境川中学校         | 社会 1年      | 岐阜 |
| 11  | 各務 茉莉  | JICA中部 岐阜県国際協力推進員 | 業務調整       | 岐阜 |
| 12  | 久世 治靖  | NIED・国際理解教育センター   | ファシリテート    | 愛知 |

## ラオス派遣受講者および同行者

| No. | 名前     | 所属先             | 教科等      | 地域 |
|-----|--------|-----------------|----------|----|
| 1   | 籠谷 美紀  | 名古屋市立小幡小学校      | 全教科 6年   | 愛知 |
| 2   | 加藤 篤   | 瀬戸市立水野中学校       | 社会 3年    | 愛知 |
| 3   | 櫻井 利幸  | 浜松市立双葉小学校       | 全教科 4,5年 | 静岡 |
| 4   | 杉村 定則  | あま市立正則小学校       | 理科 3,5年  | 愛知 |
| 5   | 服部 咲   | 名古屋市立香流小学校      | 全教科 6年   | 愛知 |
| 6   | 浜島 直美  | 大府市立共長小学校       | 全教科 6年   | 愛知 |
| 7   | 早川 修平  | 愛知県立熱田高等学校      | 理科 2年    | 愛知 |
| 8   | 山田 浩子  | 津島市立藤浪中学校       | 社会 1,2年  | 愛知 |
| 9   | 和田 さとみ | 岐阜県立岐阜商業高等学校    | 英語 2年    | 岐阜 |
| 10  | 西尾 治美  | JICA中部 市民参加協力課  | 業務調整     | 愛知 |
| 11  | 伴 和子   | NIED・国際理解教育センター | ファシリテート  | 三重 |